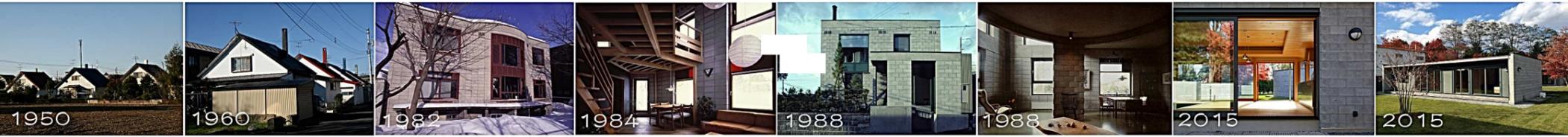
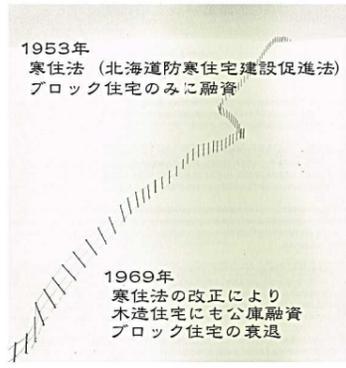


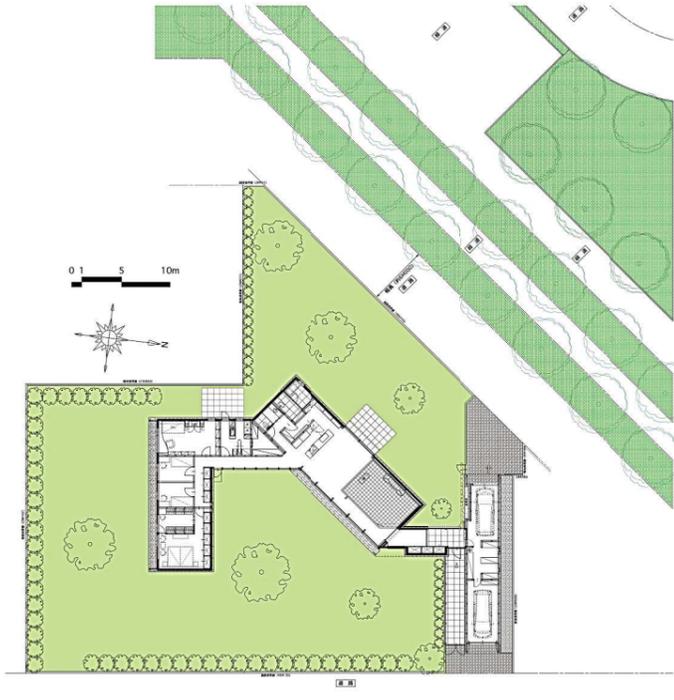


木骨ブロック造の住宅



50年前頃に作られた北海道の住宅団地には、住宅金融融資を受けた三角屋根のブロック住宅が整然と並んで、シンプルな形態が連続していて、メソソニーな日本離れした、北海道の独特な景観を造っていた。その後、木造住宅が融資を受けられるようになってからは、間取りをそのまま立ち上げたような安易な住宅が、一気に増え、札幌の街並みはすっかり乱れた。北海道特産の軽量コンクリートブロックの素朴な感じが好きであるので、木造住宅の外側に軽量コンクリートブロックを積んでみた。この自立する外壁の作り方は、木造住宅に必要な空気層を作り易いうえに、防火性能が良いし、耐久性に優れているので、メンテナンスフリーとなって、住宅が長持ちのする工法となった。

明治に造られた小樽の倉庫は、木造の外側に軟石を貼り付けた「木骨石造」と呼ばれる工法で、小樽観光の特徴的な風景になっていて、石造の重厚な倉庫群の表情を削り出している。この住宅の工法を、平成に新しくできた「木骨ブロック造」と呼ぶ。



設計期間 2014年3月～2015年2月
主な用途 住宅
用途地域 第一種住居地域
建築面積 367.12㎡
延床面積 288.88㎡
構造階数 木造 平屋建て
仕上 外壁 コンクリートブロック

